

学部長挨拶

ご卒業おめでとうございます。

ご父兄の皆様、ご子息、ご令嬢のご卒業に対し、心よりお祝い申し上げます。

学部長として、卒業生のみなさんに「餞の言葉」を贈りたいと思います。

ここ2、3年、役職柄、「企業と雇用」など、キャリア関連の授業をもつことが多くなり、中小企業の経営者の方の話聞くことが多くなっています。社長から聞いた言葉の中から、4つの教訓を、餞の言葉として贈りたいと思います。

感動的な言葉を語る企業人には共通していることがあります。「日曜日の夜になると、ワクワクしてくる」ということです。凡人は「憂鬱になる」ものですが。

それでは、どんな考えかたをすると、日曜日の夜にワクワクできるのでしょうか？

第一は、仕事は、例外なく「小さな仕事」の積み重ねだと考えることだと言います。「でかい仕事をしてやろう」という誘惑には要注意だということ。

第二は、苦しいときこそ、人のために尽くす時間を作るよう心がけること。

第三の教訓は「チャンスは忙しいときにしか来ない（忙しいからといって断っていればチャンスはめぐって来ることはない）」その通りではないでしょうか。

最後は、嫌なことは月曜日の午前中にやってしまうということ。嫌なことを先延ばしにしないということですね。

以上の四つの教訓を、折に触れて思いだしてもらえればと思います。

学長の告示にもありましたが、みなさんは、グローバル社会で生きぬいていかなければなりません。グローバル社会には、これで安心という地点はない。一仕事終わったら、すぐに次の仕事や前の仕事の改革を考えなければいけないような社会です。どんな職業でも、就職したからこれで定年まで安泰だということはありません。常に新しいものにチャレンジしな

ければ、使いものにならなくなってしまいうわけです。

しかし、その点では、実は、私はみなさんのことをあまり心配していません。みなさんには、4年間、アジアの異文化を学ぶことで得た底力がある。みなさんは、自分が考えている以上に、異文化体験により大きく成長していると思います。さらに、みなさんには、やさしくあたたかいハートと、大学時代の仲間がいます。自信をもって大いに頑張ってください。

最後は我々です。我々ももちろん頑張ります。

大学も企業体です。2018年問題と言われる、超少子化の時代がやってきます。

生き残るためには、常に改革を続けなければならない。みなさんと同じです。

みなさんが結婚し、みなさんの子どもが高校3年になるのは、あと25年から30年ほど後のことでしょうか。学部は55周年記念、還暦を迎える頃ですね。

そんなとき「お父さん、お母さんは大東の国際出身なの。すごいね」と、みなさんが子どもから言われるような立派な学部として生き残れるように頑張っていきたいと思います。

体が資本です。健康と事故に気をつけて、頑張ってください。ご活躍を期待しています。

以上、学部長挨拶といたします。

二つほど、ご披露したいことがあります。

一つは、机上の「枝豆入りチーズパン」です。1年生を中心に教職員が協力して山崎製パンと共同開発した商品です。4月1日発売ですが、本日、卒業祝いに先行配付させていただきました。ご賞味ください。

二つ目です。みなさんは、昨年度まで国際関係学部事務室にいて、現在は学務部学務課に勤務する三嶋啓仁さんを覚えていますか？ ちょっと怖いお兄さんといった感じの方です。前方の綺麗な花をご覧ください。三嶋さんが、みなさんの卒業を祝して贈ってくださいました。ありがとうございました。